

“石川馨先生 生誕100年記念”

第101回品質管理シンポジウム



日本の製造業再強化のために 品質世界一の確立

—サプライチェーン全体で作る「安全・安心・信頼」のモノづくり—



講演3
TOTOの品質への拘りと拘りの技術
猿渡 辰彦氏
TOTO(株)
代表取締役副社長執行役員



講演2
デンソーの「信頼と革新」のモノづくり
有馬 浩二氏
(株)デンソー 取締役社長

講演1
安全な電力貯蔵用
リチウムイオン電池が世界を救う
吉田 博一氏
エリーパワー(株) 代表取締役社長



(株)小松製作所 相談役
坂根 正弘氏
特別講演
コマツにおける
企業価値向上・顧客価値創造
—ビジネスモデルで先行し
現場力勝負へ—

講演4
アサヒビールにおける
最高品質提供のための取り組み
—サプライチェーン全体を通じた
安全・安心・信頼のものづくり—
川面 克行氏
アサヒグループホールディングス(株)
代表取締役副社長



開催期日：2015年12月3日(木)～5日(土)
会場：大磯プリンスホテル

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟
後援：一般社団法人 日本品質管理学会

品質管理シンポジウム賛助会員入会のご案内

当財団は、創立以来その社会的使命に鑑み主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目を浴びるまでに成長いたしております。

今日のように激変する経営環境の中で、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されるとともに、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためには関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的に開催しておりますのは、この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。是非、本シンポジウム賛助会員にご入会いただきますようご案内申し上げます。

品質管理シンポジウム 賛助会員特典・入会費用

- 特典 1** ▶▶▶ 品質経営(革新)のための次代の指針と最新情報が入手できます。
- 特典 2** ▶▶▶ 参加企業各社の品質に関する最新情報が入手できます。
- 特典 3** ▶▶▶ 本シンポジウムに毎回無料参加枠の確保(トップ枠・通常枠)と、特別価格でご参加いただけます。
- 特典 4** ▶▶▶ 本シンポジウム、発表報文集・実施報告が無料で入手できます。
- 特典 5** ▶▶▶ 会員限定のバス送迎サービスをご利用いただけます。
- 特典 6** ▶▶▶ 一部の講演を会員専用ページから視聴いただけます。(講演者の許可を得た映像に限りますので不定期です)(予定)

入会費用 1口につき年額187,920円(消費税含む)

上記入会金をお支払いいただきますと **無料参加枠2名(トップ枠・通常枠)**を確保できます。

無料参加枠以外の方は特別価格(43,200円)でご参加いただけます。

品質管理シンポジウム 賛助会員会社(日科技連賛助会員とは異なります) ※2015年9月1日現在

- | | | | | |
|-------------------|------------------------|---------------------------|-------------------|--------------------|
| 1 アイシン・エイ・ダブリュ(株) | 20 澤藤電機(株) | 38 (株)TTM | 55 (株)日科技連出版社 | 74 前田建設工業(株) |
| 2 アイシン精機(株) | 21 サンデンシステムエンジニアリング(株) | 39 (株)テクノプロ
テクノプロ・R&D社 | 56 日産自動車(株) | 75 (株)前田製作所 |
| 3 愛知製鋼(株) | 22 サンデン物流(株) | 40 テックスエンジニアソリューションズ(株) | 57 日産車体(株) | 76 マツダ(株) |
| 4 アイホン(株) | 23 サンデンホールディングス(株) | 41 (株)デンソー | 58 (株)日本科学技術研修所 | 77 (株)マルヤスエンジニアリング |
| 5 (株)アドヴィックス | 24 サンワテック(株) | 42 東レ(株) | 59 日本電気(株) | 78 丸和電子化学(株) |
| 6 (株)アーレスティ | 25 (株)GSユアサ | 43 トクラス(株) | 60 日本特殊陶業(株) | 79 三島食品(株) |
| 7 (株)インターワークス | 26 (株)ジーシー | 44 豊田合成(株) | 61 パナック(株) | 80 (株)村田製作所 |
| 8 (株)MCシステムズ | 27 (株)ジーシーデンタルプロダクツ | 45 (株)豊田自動織機 | 62 パナソニック(株) | 81 (株)メイドー |
| 9 NECフィールディング(株) | 28 (株)ジェイテクト | 46 トヨタ自動車(株) | 63 パナソニックヘルスケア(株) | 82 名北工業(株) |
| 10 オージー技研(株) | 29 清水建設(株) | 47 トヨタ自動車九州(株) | 64 (株)羽生田製作所 | 83 (株)安川電機 |
| 11 大塚化学(株) | 30 JUKI(株) | 48 トヨタ自動車東日本(株) | 65 日野自動車(株) | 84 (株)ユニバンス |
| 12 オムロン(株) | 31 住友理工(株) | 49 トヨタ車体(株) | 66 ファーウェイ・ジャパン(株) | 85 (株)リコー |
| 13 鹿島建設(株) | 32 積水化学工業(株) | 50 トヨタ紡織(株) | 67 フクムラ仮設(株) | 86 リコーエレメックス(株) |
| 14 関西電力(株) | 33 (株)セキソー | 51 トヨタホーム(株) | 68 富士ゼロックス(株) | 87 リコーテクノロジーズ(株) |
| 15 (株)キャタラー | 34 ダイキン工業(株) | 52 長津工業(株) | 69 富士電機(株) | 88 (株)良品計画 |
| 16 コーセル(株) | 35 ダイヤモンド電機(株) | 53 新潟ダイヤモンド電子(株) | 70 フジミ工研(株) | 89 ローム(株) |
| 17 小島プレス工業(株) | 36 (株)竹中工務店 | 54 日華化学(株) | 71 (株)プリデストン | |
| 18 コニカミノルタ(株) | 37 (株)千代田グラビヤ | | 72 べんてる(株) | |
| 19 (株)小松製作所 | | | 73 (株)保志 | |

賛助会員入会申込み/問い合わせ

E-mailまたはお電話にてご連絡いただければ、品質管理シンポジウム賛助会員申込書をお送りいたします。

一般財団法人日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当(安随/池田)

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL: 03-5378-1213 FAX: 03-5378-9842 E-mail: tqmsemi@juse.or.jp

最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)



第100回
トヨタ自動車(株)名誉会長
田中 章一郎氏



第99回
マツダ(株)代表取締役会長
金井 誠太氏



第97回
(株)プリデストン 相談役
荒川 昭四氏



第96回
(株)ローランドバルガー 日本法人会長
遠藤 功氏



第85回・第95回
サムスン電子 常任顧問
Y. W. Lee 氏



第91回
良品計画 会長
松井 忠三氏

QCS専用サイト

QCS専用サイトを開設しました。

最新情報、第100回記念史・記念映像、過去の開催実績、賛助会員企業の声等掲載しております。

<http://www.juse.or.jp/qcs/index.html>



参加要領

開催日時 **2015年12月3日（木）19：30～12月5日（土）12：00**

（12月3日受付開始17：00～，夕食18：00～）

会場 **大磯プリンスホテル**

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷546 TEL. 0463-61-1111 FAX. 0463-61-6281

■参加対象

企業の役員、上級管理職の方々

■参加費

○一般

108,000円／1名（消費税込み）

○本シンポジウム賛助会員会社

トップ枠（会長・社長）、通常枠 各1名無料

3人目から43,200円／1名（消費税込み）

※**トップ（会長・社長）が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠1名のみとなります。**

※食事代（12月3日夕、12月4日3食、12月5日朝・昼）は日科技連が負担いたします。尚、宿泊費、交通費はご負担ください。

■バス送迎サービス

JR小田原駅・大磯駅をご利用頂く賛助会員企業の方は開催地までのバス送迎サービス（時間帯限定）をいたします。詳細は、開催要領にてご案内いたします。

■申込方法・問い合わせ先

第1次メッセを10月19日（月）とさせていただきます。

一般財団法人 日本科学技術連盟 教育推進部 第一課

品質管理シンポジウム担当（安随／池田）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL：03-5378-1213

FAX：03-5378-9842

E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

シンポジウム申込方法

Webサイトからお申し込みください。

下記の申込フォームから必要事項を入力してください。

以下のフォームで参加者**5名まで**を一度に申し込むことが可能です。

<https://fofa.jp/juse/a.p/144/>

申込画面フロー

連絡担当者
入力画面



参加者1
入力画面



参加者5
入力画面



確認画面



登録完了画面

※

※この間に参加者2，参加者3，参加者4の入力画面があります。

ご入力時の注意事項：メールアドレスや電話番号などの英数字を入力の際は、必ず半角で入力してください（全角でも入力することができてしまいますので十分ご注意ください）。

1 連絡担当者入力画面【全て必須項目】

お申込受付後「関係資料」をお送りする方の情報を入力します。参加人数（シンポジウム賛助会員）と参加人数（一般）の欄には、実際の参加人数（数値のみ）を入力してください。
※**シンポジウム賛助会員会社の場合は、参加人数（一般）の欄には0（ゼロ）を入力してください。**

2 参加者1の入力画面【全て必須項目】

参加者情報（1画面1名分）を入力します。

3 参加者2～5の入力画面【任意項目】

参加者が2名以上いる場合は、全て必須です。

参加者が2名以上いる場合はこの画面以降入力してください。参加者が1名の場合は、何も入力せずに、確認画面までお進みください。参加者2～5の入力画面では入力項目の必須チェックを行っておりませんので、2名以上を入力する場合は、入力漏れがないようにご注意ください。

趣旨



田中 千秋氏

東レ(株) 顧問

第101回品質管理シンポジウム
 担当組織委員

本「品質管理シンポジウム」は今年6月で100回を迎え、今回が101回目の記念すべきスタートとなった。品質経営の発展を振り返ると、「第一世代：是正」「第二世代：再発防止」「第三世代：未然防止」「第四世代：品質経営（予知・予防）」と位置づけられ、品質トップの日本メーカーは第四世代の品質経営を実践しているとされる。

この間、日本は品質管理を学んできた米国を抜き、品質・コスト競争力からJapan as Number 1と言われる製造業におけるトップの地位を獲得したが、最近はその地位が揺らいでいる。その背景には、欧米勢の巻き返しや新興国の追い上げ急が挙げられるが、それだけではなく、日本の圧倒的に強くて他の追随を許さなかった「モノづくり力」が劣化してきているのではないかとと思われる。

その理由を解析してみると、第一には内的要因としての「製造業の現場力の低下」があり、若者の理科離れやサービス産業指向のためにモノづくり現場に優秀な若手を確保しにくい状態が起こっている。技術内容は難しくなって課題は多くなっていくのに、現場力が追いつかないため、優良企業と呼ばれるところでも事故や事件が多発するようになった。コスト競争に目が向くために、品質面での改善が進んでいないことも問題である。第二は外的要因とも云えるもので、グローバル化の進行とともに競争がますます激化し、日本企業

のグローバルな顧客ニーズ把握力の弱さや開発スピードへの対応の遅さが目立つようになって来た。マーケティング力の弱さを露呈することになっているために開発目標もどんどん変化していく。目標の明確な時代の徹底的にやる、勝つまでやるというこだわりの文化が消えていくことになる。

1980年代までは欧米に追いつけ追い越せとしてやっていたればよかった従来の産業構造、モノづくりでは立ち行かなくなると云えるのではないかと。従って、産業構造そのものから変革していかなければいけないが、資源に乏しい日本は「貿易立国＝製造業立国」として生き続けなければいけない。日本の産業構造の変革は一朝一夕に出来るものではないので、まずは製造業のモノづくり力の復活が喫緊の課題となる。

日本のモノづくりにおける究極の強さは、なんと云っても品質であり、就中「安全・安心・信頼」である。この品質項目では、絶対に競争に後れを取ってはならない。製造業立国の最後の砦は品質であり、日本は品質立国と云ってもよいのである。

101回の新たなスタートに当たって、100回記念シンポジウムの討論結果も踏まえつつ、品質特に安全・安心・信頼さらに顧客にとっての価値で断トツ世界一を目指すことは極めて意義あることと考える。

本シンポジウムの特長

- ① 今後の日本の品質管理の指針を示します。
- ② 質疑応答の時間を設け、日本を代表するゲストスピーカーから深掘した話を聞くことができます。
- ③ 「談話室」「グループ討論」「立食パーティー」など参加者が交流できる場を数多くご用意しています。

プログラム

開催期日：2015年12月3日(木)～5日(土)

会場：大磯プリンスホテル

月日	時間	科目	講演者
12/3 (木)	19:30～20:40	<特別講演> コマツにおける企業価値向上・顧客価値創造 ービジネスモデルで先行し現場力勝負へー	坂根 正弘氏 (株)小松製作所 相談役
	20:40～21:00	質疑・応答	
	21:00～22:00	グループ討論メンバー自己紹介	
	22:00～23:00	談話室(参加自由)	
12/4 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶	(一財)日本科学技術連盟 役員
	8:40～9:20	<基調講演> 日本の製造業再強化のために品質世界一の確立 ーサプライチェーン全体で作る「安全・安心・信頼」のモノづくりー	田中 千秋氏 東レ(株) 顧問 ※101QCS担当組織委員
	9:20～10:30	<講演1> 安全な電力貯蔵用リチウムイオン電池が世界を救う	吉田 博一氏 エリーパワー(株) 代表取締役社長
	10:30～10:40	質疑・応答	
	10:40～11:00	休憩	
	11:00～12:10	<講演2> デンソーの「信頼と革新」のモノづくり	有馬 浩二氏 (株)デンソー 取締役社長
	12:10～12:20	質疑・応答	
	12:20～13:10	昼食・休憩	
	13:10～14:20	<講演3> TOTOの品質への拘りと拘りの技術	猿渡 辰彦氏 TOTO(株) 代表取締役副社長執行役員
	14:20～14:30	質疑・応答	
	14:30～15:40	<講演4> アサヒビールにおける最高品質提供のための取り組み ーサプライチェーン全体を通じた安全・安心・信頼のものづくりー	川面 克行氏 アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役副社長
	15:40～15:50	質疑・応答	
	15:50～16:00	グループ討論の主旨説明	
	16:00～17:50	グループ討論(1)	
18:00～19:00	夕食(立食)		
19:10～21:00	グループ討論(2)		
21:00～23:00	談話室(参加自由)		
12/5 (土)	8:30～9:45	グループ討論報告(10分×6班※予備15分)	
	9:45～10:00	休憩	司会：田中 千秋氏 報告：各班リーダー
	10:00～11:30	総合討論	
	11:30～11:40	第101回 品質管理シンポジウム まとめ	田中 千秋氏
	11:40～11:50	次回(102回)品質管理シンポジウム案内	鈴木 和幸氏 電気通信大学 教授 102QCS担当組織委員
	11:50～	昼食・解散	

※テーマ、プログラム、会場は、変更になる場合があります。

第101回 品質管理シンポジウム 講演概要

12/3 (木) 特別講演

コマツにおける企業価値向上・顧客価値創造 ービジネスモデルで先行し現場力勝負へー

坂根 正弘氏 (株)小松製作所 相談役

企業価値とは何か。経営者として迎ら着いた結論は、社会、株主、金融機関、顧客、協力会社、社員という全てのステークホルダーから、どれだけ信頼を得ているかという尺度だ。なかでも、企業価値を創り、企業と共有し、その結果、企業を評価して売上、利益をかち合う、最も重要な存在は顧客だと言える。コマツでは、「顧客にとってなくてはならない度合いを高め、パートナーとして選ばれ続ける存在となる」ための活動に取り組んでいる。また、コマツは単なる商品開発でなく、サービス、そしてソリューションまで提供することを目指している。ビジネスモデルで先行し、現場力で勝負することが、顧客価値の創造につながり、ダントツの経営となるのだ。



12/4 (金) 基調講演

日本の製造業再強化のために品質世界一の確立 ーサプライチェーン全体で作る「安全・安心・信頼」のモノづくりー

田中 千秋氏 東レ(株) 顧問 ※101QCS主担当組織委員

日本のモノづくりにおける究極の強さは「品質」であり、就中「安全・安心・信頼」です。しかし、近年では自動車関連での大規模なリコールをはじめとする各種品質トラブル、免震ゴム性能偽装の発生等の由々しき事象が頻発しています。Japan as Number1と賞賛されてきた日本の製造業の地位が揺らいできていると言わざるを得ず、これは、モノづくり力の低下が日本の産業競争力低下に結びついているとも言えます。「品質立国日本」であり続けるために、出口戦略を見据えたモノづくりのしくみを構築し、品質特に安全・安心・信頼さらに顧客にとっての価値として、「品質ダントツ世界一」を実現していくための考え方をご紹介いたします。



12/4 (金) 講演 1

安全な電力貯蔵用リチウムイオン電池が世界を救う

吉田 博一氏 エリーパワー(株) 代表取締役社長

原子力発電や太陽光発電・風力発電・バイオマス発電等の再生可能エネルギーを無駄なく安定して使うためには「蓄電」が重要な役割を担います。東日本大震災後は、非常時のバックアップ電源や電力不足対策として蓄電池が注目されました。エリーパワーは2006年創業のベンチャー企業でありながら、業界をリードする高安全・高性能な電力貯蔵用大型リチウムイオン電池を国内で開発・製造しています。2016年の電力自由化、2020年の東京オリンピック控え、エネルギー環境が大きく変わっていく中で、エネルギー問題と環境問題の解決に貢献し、安心・安全な社会を支える大型リチウムイオン電池について講演いたします。



12/4 (金) 講演 2

デンソーの「信頼と革新」のモノづくり

有馬 浩二氏 (株)デンソー 取締役社長

当社は、「品質のデンソー」をスローガンに掲げ、品質経営に邁進し、グローバルに事業展開してきました。今後も持続的成長を遂げるためには、お客様から信頼される確かな品質を担保しつつ、取り巻く環境の変化に対応できる革新的なモノづくりで新たな価値を提供していくことが重要です。当社では、モノづくりにおいて、「より上流での製品品質・製造品質の作り込み」や、「海外拠点・仕入先様と一緒に試作/量産一貫活動」、「完成度の高い生産設備づくりとその維持向上」など、種々の取り組みをグローバルに推進すると共に、これらを支える「人づくり」に力を入れています。本講演では、グローバルに展開する当社のモノづくりについて、これまでの取り組みも含め、課題認識とその対応についてご紹介いたします。



12/4 (金) 講演 3

TOTOの品質への拘りと拘りの技術

猿渡 辰彦氏 TOTO(株) 代表取締役副社長執行役員

ジャパンアズナンバーワンが過去の言葉となり、ものづくり日本の復活が望まれて久しい。セミナー案内が届くと必ずと言ってよいほどイノベーションコースが設けられ、改善・改良ではなく変革を！と呼びかけている。これまで存在しなかったものを生み出すことが出来れば大きな成功を手にする事が出来る。しかし、かつてのものづくり日本への評価は、斬新な商品の創出力だけでなく、どの商品一つとっても手抜きなき品質が埋め込まれていたからではなからうか。そこで閉塞感に陥ったら原点回帰という常套手段で品質を凝視してみると、品質には目に見える品質と目に見えない品質があることに気づく。メガコンペティション時代を生き抜くキーワードは、目に見えない品質への拘りが引き起こすインナーイノベーションではなからうか？



12/4 (金) 講演 4

アサヒビールにおける最高品質提供のための取り組み ーサプライチェーン全体を通じた安全・安心・信頼のものづくりー

川面 克行氏 アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役副社長

アサヒグループでは「最高の品質と心のこもった行動を通じて、世界の人々の健康で豊かな社会の実現に貢献します。」を経営理念に掲げ、ひとりでも多くのお客さまにご評価いただける商品、サービスを提供するために、全社を挙げて品質向上活動に取り組んでいます。グループの中核事業であるアサヒビールにおいて、お客さまに安心・安全をお届けするために磨き続けてきた品質保証体系をご紹介するとともに、最高の品質をお届けするために商品開発から調達、生産、物流などサプライチェーン全プロセスが連携してものづくりに取り組んでいる事例を紹介いたします。



グループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班

「日本の製造業再強化に向けて、多様化するサービス要求への対応」

■リーダー：松田 啓寿（一財）日本科学技術連盟 嘱託 ■世話人：松木 徹（日本電気（株）品質推進本部 本部長）

趣旨 各組織において、グローバル市場で競争優位を実現できるレベルの顧客価値創造が期待されている。そのために、既存の製品実現プロセスの何処が突破口になるのか。1班では、モノづくりに関連するサービス提供にフォーカスする。例えばカスタマイズやソリューション提案など多様化するサービス要求について、1班のグループ討論（GD）メンバーが実際に直面している（していた）実状を共有し、組織的な対応可能性について議論する。

論点

- ①品質における優位性を実現した事例/優位性を失った事例の比較から、製品実現プロセスの何処に改革のポイントがあるのか。
- ②安全・安心・信頼のモノづくりのために、組織がやるべきこと（やってはいけないこと）は何か。
- ③日本の製造業再強化のためのTQM推進の工夫、及び業務プロセス改善についての提言。

第2班

「サプライチェーン全体で作るモノづくり」

■リーダー：永田 靖（早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授） ■世話人：牛山 忠明（パナソニック（株）環境・品質センター 安全・品質部 部長）

趣旨 競争力を高めていくモノづくりプロセスとして、企業をまたがる開発・製造・販売が進展している。これに顧客やサプライヤーを巻き込んだ「サプライチェーン全体で作るモノづくり」について議論したい。グローバル競争に打ち勝つ為に、安全・安心・信頼のモノづくりの観点から、現状認識とその要因を分析したい。そして、あるべき姿を模索したい。さらに、その実現に向けた問題点、解決策を見出したい。サプライチェーンの中で様々な立場にある企業の視点から議論し、目指す姿に向けた共通認識を醸成して行きたい。

論点

- ①サプライチェーン全体での品質保証における、各社のサプライチェーンでの位置付けから、また全体からの視点で、問題点と解決方法を探る。
- ②サプライチェーン全体でのモノづくり、特に新製品開発を成功させるために、各企業、組織がやるべきことは何か。
- ③モジュール化におけるインテグレータと各モジュラーのモノづくりにおける開発・製造・品質保証（責任所在）について考える。

第3班

「グローバル市場の品質要求の多様化と対応」

■リーダー：中條 武志（中央大学 理工学部経営システム工学科 教授） ■世話人：野木 隆（サンデンホールディングス（株）STQM本部 経営品質部 部長）

趣旨 日本の製造業・サービス業の多くは、グローバル市場を相手にビジネスを行っている。しかし、国・地域ごとに異なる品質要求に対応することができず、ニーズの把握力の弱さや開発スピードの遅さが目立つようになっている。なぜ負けるのか、安全・安心・信頼（顧客価値創造）のモノづくり・コトづくりの視点からその要因を掘り下げ、組織全体として目指すべき姿は何か、その達成に向けて具体的にどのような行動・取り組み・経営を行うべきなのかについて議論したい。

論点

- ①日本の製造業・サービス業が国・地域ごとに異なる品質要求にうまく対応できない要因は何か。また、成功しているケースもある。その要因は何か。
- ②多様な品質要求を持つグローバル市場において、安全・安心・信頼（顧客価値創造）のモノづくり・コトづくりの視点から組織全体として目指すべき姿は何か。
- ③具体的にどのような行動・取り組み・経営が求められるのか、TQMをどのように活用できるのか。

第4班

「グローバル時代のものづくりの在り方とその役割」

■リーダー：森田 浩（大阪大学 大学院情報科学研究科 教授） ■世話人：綿民 誠（（株）ジェイテクト 理事 TQM推進室長）

趣旨 グローバル時代において日本のモノづくり力が低下してきている。世界の変化を的確にとらえて追随するだけでなく、世界のニーズをとらえた対応をすることが求められている。企業ごとあるいは部門ごとの取り組みでは競争力がつかない。サプライチェーン全体で、企画設計から営業物流まで一体となることで、コストや品質を実現することができる。マザー工場のある方が変わってきている。これまでは人材や技術を現地へ提供するのが役割であったが、これからは現地ですら作るかを一緒に考えていかなければならない。第4班では、グローバル時代のマザー工場の役割について議論したい。

論点

- ①これからのマザー工場の役割として何が求められているか。
- ②海外拠点にマザー工場を置く場合、日本と現地の役割はどうあるべきか。
- ③グローバルに安心・安全・信頼のモノづくりを実現するために重要なことは何か。

第5班

「グローバル時代に求められる真の現場力とその強化」

■リーダー：光藤 義郎（文化学園大学 特任教授） ■世話人：飯塚 裕保（積水化学工業（株）生産力革新センター 品質グループ 部長）

趣旨 リーマンショック以降、複雑化/多様化/変容化し続けるグローバル時代にあって、多くのモノづくりメーカーは、雇用環境の変化/回塊時代の退職/インフラコストの更なる増加等々、幾つもの内的課題を抱えつつも、自らの生き残りや、事業再編/海外展開/アウトソーシング/IT活用等々、様々な戦略を取ってきた。しかし、その結果、かつて世界を席巻した日本のモノづくり力が相対的に低下し、中でも日本の最大の強みとされた「現場力」の劣化が著しいとの声が上がっている。そこで、第5班では、この「現場力」に光を当て、現場力とは一体何か、かつては本当に強く、それが競争優位要因となっていたのか、もしそれが正しいとした場合、再びそれを取り戻せば今後も優位に戦えるのか、それとも過去とは異なる別の新しい現場力を探し出し、それを新たに構築すべきなのか、そういったことを全員で議論してみたい。

論点

- ①現場力とは何か、その本質はどこにあるか。
- ②日本の現場力は強かったのか、それは本当に劣化したのか、だとしたらそれは何故か。
- ③かつての現場力を取り戻せばいいのか、それとも新しい現場力を再定義・再構築すべきなのか。
- ④そのためには、今、或いはこれから何を為すべきか。

第6班

「グローバル時代における、人を惹きつける国内現場力の強化」

■リーダー：安藤 之裕（一財）日本科学技術連盟 嘱託 ■世話人：鬼頭 靖（アイシン精機（株）TQM・PM・ISO推進部 部長）

趣旨 「現場力の強化」が叫ばれてから、多くの企業がいろいろなことに取り組み、効果を上げてきている現場も多くあるだろう。その一方で、日本の製造現場は今でも人を惹きつける存在であり続けているだろうか。職場第一線で働くメンバーから管理監督者、技術者、経営者に至るまで、国内の製造現場が人にとって働き甲斐があり、かつ、希望を持って働き続けたいと思える現場力を維持向上させるための方向性を議論したい。

論点

- ①現状認識：どのような人が不足しているか 質・量。
- ②原因：国内製造業はどうして人を惹きつけられなくなってしまったのか。
- ③対応策：組織としての対応・処方箋、国への提言、例・現場の第一線で働くメンバーが達成感を味わうことができる環境づくり、経営者、管理者が現場の活動に関心を持たせる施策。

品質管理シンポジウム組織委員

（五十音順、敬称略）※◎は第101回品質管理シンポジウム主担当組織委員



圓川 隆夫
東京工業大学名誉教授



佐々木 眞一
日科技連 理事長
トヨタ自動車(株) 相談役・技監



鈴木 和幸
電気通信大学 教授



◎田中 千秋
東レ(株) 顧問



中尾 眞
(株)ジーシー 取締役会長



宮村 鐵夫
中央大学 教授